

## 21世紀のつるを語る会



峰岸秀茂氏 出身 下谷 (64歳)

壁の綺麗な土蔵造りの通りがありまして、それが若い人達の気持ちにくすぐるのかなと思います。たまたま都留のことを思い出しまして、城下町だけではない白壁どこにあるのかなと思いましたが、その信用金庫の壁ですが、白壁でその上に瓦の屋根が造ってあった。どうしてかと思ったら、少しずつ新しい建物の中にそういう要素を生かした町並みがつくられていた。それでどのくらい若者を呼び寄せることが出来るかどうか分かりませんが、町全体を調和のとれたものにして、住んでいる人達の意識は感じられました。

市から補助がでているのか、まったく自由にやっているのか分かりませんが、こんなことが出来れば、城下町つるのイメージが、なにか出来てくるような感じがします。これは夢物語かも知れませんが。これは、私の個人的な希望なんですけど、街の中をきれいな水がさらさら流れる街、これはどこへ行ってもなかなかない。都留は水も豊富だしきれいだと思えます。これを都留で是非やって欲しいと思います。

### 二十一世紀を担う若者へ

川上氏

都留市の第三次長期総合計画に二十一世紀の展望として成長より安定、生産と生活の均衡、量よりも質に重点を置く生活様式の確立を基調に街づくりを進めています。このようななかで二十一世紀に生きて行く若者達へ何かお願いします。

### 分りやすい

### キャッチフレーズで

西室氏

街には色々な顔があることが必要なのか、それとも市の意思としてこういう街に行きのか、例えば、金沢の長町では、市でお金を出して、塀はこういうふうにして、うと決めて、街の思想を持ってやっています。



国井雅比古氏 出身 一目丁 (38歳)

先ほど、安定とか、しっかりと街づくり、ということがありましたが、新しい時代にあつたという意味では、国民は昔に比べて豊かになった、飲み食い、着る物だけで言うと、終わった感じがする。もうこの時期になると、実質的なものを求めている。人間の感性と言うか、気持ちが豊かになるような、そういうものが必要になる。これらをうまく言葉で言わずに、例えば川は絶対に汚さない。こう言った分りやすいキャッチフレーズを、はつきり出して街づくりを進めることだと思います。市長さんが考えている街づくりのイメージからすると、けして、渋谷風なものではないように思えます。むしろこの街らしさ、そう言ったものを感じられます。

互いに存在感を持って住める街にして行く、そのポイントを決め皆でやって行く、このことが必要かと思えます。

### 若者への期待

国井氏

今の話には、大賛成です。具体性と言うのは、川でも何でもいい。具体的なイメージが持てるもの。抽象的な言葉じゃなくて、子供でも分かるようなキャッチフレーズを持って進むととも魅力的だし、何か出来そうな気がします。

都留の人口ピラミッドを見ますと、二十一世紀は、今の二十四・五歳の若者が中心となって創つてゆく、その世代が二十一世紀に向け我々のこととしてつかめるようなものを、行政が率先して指し示しながら一緒にやってみようことが大事だと思います。

また、大学の学生と地元との若者とどう交流して行くのがひとつのポイントだと思います。学生は全国から集まってくる、若者たちが交流の場をつくれるかどうか、若者達自身が考えてやってみよう。次の世代には、もう少し心の広い若者達が出てきて欲しい。

### 活性化が必要

奥秋氏

大学の将来からいって、先生への道は段々厳しくなる。教員だけでなく、幅広い分野に進める学科の設置が必要だと思ふ。

都留市の特長を生かした政策が必要だ。その意味でゴルフ場は、雇用の増大と、税収の増加が得られるので、市の活性化につながると思います。織物は、寝具だけでこれ以上伸びて行くことは大変だと思ふ。何か別のものをすれば良いと思ふ。現実には今織物は厳しい。これが現状ですから早く現状を見極めて行くことが必要な気がします。

### 歴史を消すな

峰岸氏

織物の歴史を消したくないと思ふ。出来れば行政で博物館的に古い織物や織機を置いて展示できるようにものをつくって残しておいて頂きたいと思ふ。

川上氏

今日は本当に有難うございました。以上で座談会を終わります。